

## 舞鶴工業高等専門学校学生相談室カウンセラーから保護者の皆様へ

後援会の皆様、こんにちは。私たちは学生相談室のカウンセラーです。

舞鶴高専の学生相談室は、カウンセラー2名、精神科医1名で担当しています。今年度は月平均13日開室しており、他の日も学生相談室員として配置されている教職員により、随時対応できる体制となっています。相談室内は、来室した学生がほっと一息つき、どんなことでも自由に話せる空間と時間を提供できるよう心がけています。

さて、学生さん達の年頃には、進路や学業、将来について、また自分自身のあり方や性格について、さらに友人や異性、親御さんなど身近な人との関係についてと、実に様々な事態に直面し、悩み、葛藤する機会が増えてきます。保護者の皆様も10代後半の多感な時期の悩みや葛藤には心当たりがおありなのではないかと思いますが、どのように向き合ってこられましたか。

事柄にもよりますが、思い浮かぶ方法としては、友達や家族、先生など、周りの親しい人に相談したり、他のことで気を紛らわせつつ、時間とともに解決したというようなことが多いのではないのでしょうか。なかには、ご自身の心の内でひとり悩みながら解決したという方もおられるでしょうし、反対に悩みについては、とにかく考えず、ないものとしてやり過ごしてきたという場合もあるかもしれません。

ここでお伝えしたいのは、ひとりひとり、またひとつひとつの事態に対して向き合い方はそれぞれであるということです。つまり、学生もそれぞれ、またその時々異なる向き合い方をされます。保護者の皆様は、日頃よりご子息・ご息女と深く関わるなかで、悩みがありそうだ、いつもと反応が違うなど、大きな、あるいは些細な変化にも気づかれることがあると思います。そのようなときには、本来は最も身近な大人である保護者の皆様に、じっくりと話に耳を傾けていただくことがとても重要です。しかし現実には、身近な関係だからこそ話せない、聴きづらいということがあると思います。また、大人の考えを押しつける事態になった際には、その提案が功を奏すればいいのですが、そうならないとき、話したことを後悔することもあるかもしれません。

このように記すと、保護者の皆様は不安に感じられるかもしれません。しかし、本来彼らは一番身近な大人に話したい、わかってほしいという想いがあります。それでもどのように話せばよいか、ためられるようなときには「学生相談室」をご紹介いただくのもひとつの方法かなと思います。

また、保護者という立場から、学校に関するご意見や相談したい事柄がおありになるかもしれません。しかし、どのように働きかけたらよいのか等、迷われたり、不安に感じられることもあるでしょう。そのときには、様々な方法や可能性について一緒に考えていきたいと思っております。今後はぜひ、保護者の皆様も積極的に学生相談室をご活用ください。

学生相談室内



箱庭療法セット（平成 28 年導入）

